

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第4区分
 【発行日】平成18年6月1日(2006.6.1)

【公開番号】特開2000-293980(P2000-293980A)
 【公開日】平成12年10月20日(2000.10.20)
 【出願番号】特願平11-97481
 【国際特許分類】

G 1 1 B 33/14 (2006.01)

【F I】

G 1 1 B 33/14 K

【手続補正書】
 【提出日】平成18年4月4日(2006.4.4)

【手続補正1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項1】

筐体内部の空間にディスク状の記録媒体を収容し回転駆動する、記録媒体駆動装置において、
ディスクの一方側の面に対向する筐体の壁面に、ディスクの回転軸について対称な配置を取って複数の開口が形成されており、
該開口を通じて筐体内部と外部との間で空気が流通可能となっている、
 事の特徴とする記録媒体駆動装置。

【請求項2】

筐体内部の空間にディスク状の記録媒体を収容し回転駆動する、記録媒体駆動装置において、
ディスクの周囲を取り囲む筐体の壁面に、均一な配置で複数の開口が形成されており、
該開口を通じて筐体内部と外部との間で空気が流通可能となっている、
 事の特徴とする記録媒体駆動装置。

【請求項3】該記録媒体の回転速度が毎分10000回転以上である請求項1乃至2に記載の記録媒体駆動装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0033
 【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

【発明の効果】本願発明の記録媒体駆動装置によれば、記録媒体が高速回転しても媒体全面が常にほぼ大気圧と同一の圧力を受けて気圧変動が解消されるようになり、大きなうねり又は羽ばたきを生じて振動すること、更に媒体に浮き上がりが生じること、媒体が反り返ること等の現象を防止できる。よって、従来より回転速度を高速にしたとしても記録媒体は不具合なく回転する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0034
 【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

本願発明の請求項1に記載の記録媒体駆動装置によれば、周辺空気の流量、風向が筐体内で媒体の回転中心に対してほぼ対称となるように筐体内の空気が流動しながら媒体全面がほぼ大気圧と同一の圧力を受けるようになるので記録媒体はより安定して回転する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

本願発明の請求項1に記載の記録媒体駆動装置によれば、周辺空気の流量、風向が筐体内で媒体の回転中心に対してほぼ対称となるように筐体内の空気が流動しながら媒体全面がほぼ大気圧と同一の圧力を受けるようになるのでより記録媒体はより安定して回転する。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

本願発明の請求項3に記載の記録媒体駆動装置によれば、回転速度が毎分10000回転以上にてより安定な回転が得られる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0037】

本願発明の記録媒体駆動装置によれば、樹脂のような軟材質からなる記録媒体を従来より回転速度を高速にしても記録媒体の変形といった不具合が発生することがない。